

## 1. 基調講演要旨

### 「南海地震の特徴と防災教育の必要性」

村上 仁士 徳島大学名誉教授

- ・防災教育とは、「あなたが負傷しない、死なないことが義務」であると教え、家族単位で、家庭生活が災害によって壊されないような計画を立てることを推奨している。南海地震等の発生確率の高さを説明し、大災害発生時にはレスキューなどの公助が行き届かないこともありうるため、自助・共助の重要性を説明。
- ・防災教育のために、防災・減災の基本的な考え方の一つとして南海地震の特徴を知らなければならない。今までの例で言うと、南海地震発生前に前兆として M7 級の地震が発生する。さらに、東海・東南海との連動や沿岸域への巨大津波の発生、室戸岬が隆起し、高知市付近が沈降することにより道後温泉の湯が止まるなどの特徴がある。
- ・現在被害を体験している人もいる昭和南海地震の津波は過去最小の規模。徳島には、それ以上の規模で起きた慶長・宝永などの津波の碑や文章、体験者の証言などが得られる古文書などもある。こうした被害の歴史から、過去の教訓や、自分がどんな土地に住んでいるかということを勉強するとよい。数値計算では予測されないような、地元の特徴（弱点）を知ることができる。
- ・地震の対策を立てるために、地震の「攻撃作戦」を知ることが必要となる。南海地震・東海・東南海が連動するか、時差的に発生するかによって被害が変わってくる。こういった状態で、現況で対応できるか評価をするが、防災を考える際は、最短の時間で最大の災害が起こると考え、「備え」というより「立ち向かい迎え撃つ」ことが大切。
- ・最終的には地震津波の被害を軽減、回避したい。または被害をできるだけ最小化して復旧、復興につなげたい。家具の固定や建物の耐震化などの人的被害や物的被害、財産被害を半減させるといったことを、国の防災戦略に則って一人ひとりが対策を考えていかなければならない。
- ・南海地震が間近に迫っている意識を持ち、得た知識を自分に当てはめてみて、被災のイメージを描きながらシミュレーションすることが一番大切なこと。一人ひとりで、あるいは学校、地域で、命が救われるようなことを考える教育のために知識を知恵に変えていってほしい。